

未来を掴め

立教大学チャプレン 浪花 朋久



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また進級される皆さん、おめでとうございます。皆さんは、「卒業」や「進級」によって、「1つ大人になる」と言えるかもしれません。大人になるとは、知識や経験を更に積むことでもあります。新しい環境で得られる新しい価値観にたくさん触れていくことで、今までと違った考えや視点を持つことができるようになります。皆さんの中には、4月から新しいものに触れられることに大きな期待を抱いている方もいらっしゃると思います。

立教学院の建学の精神、「PRO DEO ET PATRIA（神と国のために）」は、立教で過ごされる全ての人々に向けられた言葉です。また、ここでいう「国のために」とは、「私たちの世界、社会、隣人のために」とも捉えられていることから、皆さんが立教で培ってきた知識と経験が、自分だけのものではなく、皆さんがこれから出会う全ての人々やこの世界のためのものでもあることを意味しています。しかし「世界のために」とは、いったいどこの世界を意味しているのでしょうか？そのヒントになる物語が新約聖書ルカによる福音書第9章に記されています。

ある時、イエス・キリストの弟子たちは、「自分たちの中で誰が一番偉いのか」と議論を始めました。イエスは彼らの心の内を見抜いて、一人の子どもをそばに寄せて立たせて、弟子たちにこう言われました。「私の名のために、この子どもを受け入れる者は、私を受け入れるのである。私を受け入れる者は、私をお遣わしになった方を受け入れるのである。あなたがた皆の中でいちばん小さい者こそ偉いのである。」（9章48節）

イエスが自分たちのことばかり考えていた

弟子たちに語られたこの言葉は、次の時代を担う子どもを如何に愛せるかということ私たちに表しています。このイエスの言葉は、自分の価値観だけではなく、各時代で生まれる価値観を常に受けとめられる姿勢が、より良い未来を創るために必要であり、それができる人こそが、本当に偉い人なのだとすることを私たちに伝えています。立教学院の建学の精神が語る「世界」には、このような未来のことも含まれているのではないのでしょうか。

近年、気候変動問題が大きく取り上げられています。それは、このまま気候変動問題を無視して、人類が自分たちの過ごしやすい世界を構築していくと、人類が地球で生活できなくなる可能性が高いからです。だから世界の人々は、未来の人々のために行動を始めました。人は時間が経つにつれ、大人になっていきます。そして大人には、次の世代の人々がより良く生きられるように社会を構築していく義務があります。人々が自分のことばかり考えていると、未来を創ることはできません。だからこそ、皆さんが立教で培った知識と経験を大いに生かしてください。イエスがそばに引き寄せられた子どもは、皆さんにとって他人ではなく、皆さんの未来の仲間になるかけがえのない存在です。立教での知識と経験は、未来を築くために与えられた神様からの力であり、皆さんの未来をより豊かにする宝物でもあります。未来のことを考える価値観は、皆さんと皆さんがこれから出会う全ての人たち、そして神様とが一緒に喜び合える世界を築いていく力になっていくのです。

皆さんのこれからのご活躍を立教のチャペルからお祈りしています。